

保育のヒント～「科学する心」を育てる～

イメージをもって／出雲市立中央保育所・幼稚園（島根県）

みなさんの園では、砂場でどのような遊びを展開していますか？

砂場の環境はどのように変化していますか？

今回の事例の3歳児は、遊びへのイメージを膨らませながら、繰り返しいろいろな物と関わることにより、物の使い方のアイデアや友達の遊びと繋がるアイデアなどの豊かな発想が生まれています。そして「科学する心」が生まれ、イメージを実現する有能感を味わっている姿が伝わってきます。



○ いろいろな道具を試しながらイメージをもって遊ぶAちゃん／3歳児

子どもたちが砂場で穴を掘り水を溜め「温泉」を作っている。それぞれ自分なりにイメージした「○○温泉」を作り遊んでいる。

✦ 場面1：「草温泉作ろう」…草と水を流すと樋が倒れる（6月中旬）

AちゃんBちゃんが砂場で樋を並べてコースを作ったり、ビールケースやバケツを使って傾斜をつけたりして、水流しを楽しんでいる。楽しそうな2人の姿に興味をもったCちゃんが遊びに加わり「温泉」を作り始める。出来上がった「草温泉」に、「いっぱい流そう」と言いながら、草や水をたくさん流す。樋が倒れて水を流す所が壊れてしまい、思うようにできない失敗を繰り返しながらも、水を溜める所（温泉）を掘る道具や掘り方をそれぞれ考えて、思い思いの温泉作りをする。

環境の工夫

砂場での水流しや傾斜を試すAちゃんの願いがかなう道具として、樋、ペットボトル、ボウル、バケツ、キャップ、ビールケース等を準備する。

✦ 場面2：「お魚すいすい温泉だよ」（事例1の翌日）

- Bちゃんと保育者が砂場で「やきにく温泉」を作っていると、Aちゃんがやって来る。
Aちゃん：「坂だよ」と、皿を使って坂道を掘り始める。
Aちゃん：「Eちゃん、ちょっと来てー」「ちょっと見て」と言って、皿で掘った坂道に水を流して見せる。
- Bちゃんの「やきにく温泉」と、隣で作っていたDちゃんの「あし温泉」が、Aちゃんが作った坂道で繋がる。
- みんなで繰り返し水を流し、坂道から「あし温泉」に水が流れる様子を楽しむ。
Dちゃん：「もう、水いいよ」
Aちゃん、Eちゃん：「まだだよ」
- 繰り返し遊んだ後、Eちゃんは砂場遊びをやめ別の遊び場へ移動する。



● Aちゃんは砂場に残り、ビールケースや樋を運んで水流しを始めるが、水の勢いで樋が倒れてしまうので、違う方法を考える。

● Aちゃんは、ザルや好きな大きさのボウルを選んで用意する。

● 地面に樋を並べ、ザルとボウルで傾斜をつけて、水を流し始める。

● 半分に切ったペットボトルを見付けると、魚に見立て、樋に流す。

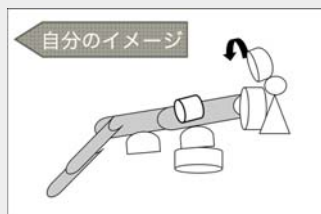
Aちゃん：「お魚が水を流したらきたよ！」

● Aちゃんと保育者が水やペットボトルを流して遊んでいると、Bちゃんもやって来て一緒に水を流して遊ぶ。

Aちゃん：「先生、見て」

保育者：「今日はお魚も流れてきたね」「元気に流れるね」

Aちゃん：「お魚すいすい温泉だよ」



● 保育者の読み取り

自分なりに考えて道具を用意したり、作ったりしながらイメージをもって遊んでいるAちゃんの姿が見られる。

● 保育者の関わり

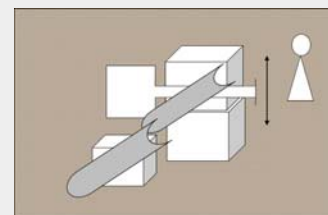
砂自分なりに遊びを進めようとする姿を大切に見守りながら保育者も一緒になって遊び、Aちゃんが遊びの中で感じている楽しさやイメージに共感しながら声かけをしていく。

✿ その後の姿

● Aちゃんが、スコップを押したらその上に置いた樋の端が上り水が流れる仕掛け式的水流しを作る。その仕掛けを保育者に見せるため、「手洗い場だよ」と呼びに来る。

● その後も、Aちゃんはコースを作ってはペットボトルのふたや拾ってきたドングリを始めいろいろな物を流すなど、身近なものを遊びに取り入れたり、見立てて遊んだりを楽しんでいた。また、使いたい物が見当たらないと他の物で代用して作る姿があった。好きな遊びや興味のある遊びを通して、柔軟な発想や遊びがより楽しくなるアイデアが生まれていった。

● 温泉作りでは、最後にみんなで温泉に入って遊んだ。一緒に温泉作りをしていた子どもも、別の場で遊んでいた子どもも、「一緒に楽しいな」「温泉は気持ちいいね」とみんなで楽しさを共有する場になった。



✿ 考察

● この遊びにはこの道具”と保育者が決めつけるのではなく、「子どもたちの遊びに即して、こんな道具があったらおもしろそう」といろいろな道具を用意して試せる環境を作ること、遊びへの興味が高まったように感じる。子どもの豊かな発想を引き出すためには、保育者自身が広い視野・柔軟な発想をもち、環境を準備したり整えたりしていくことが必要であると感じた。また、事前に環境作りをすることも大切であるが、**子どもの遊びの様子を見ながら必要な道具を追加したり、環境を整えたりして、その場・その時に合わせて臨機応変に環境を再構成していくことも大切である**と考える。

● 水を流すたびに樋が倒れ、思うようにいかない経験をしたAちゃん、Bちゃん、Cちゃんであるが、そこで遊びが途切れるのではなく、その後もそれぞれが思う温泉作りの遊びを続けて楽しむ様子があった。**自分の遊びをじっくりと楽しめる場を保障すると共に、自分が発した言葉や行動に反応してくれる友達や保育者、真似してみたいくなるような友達の遊びや**

道具などが近くにあることも、大切な環境（人や物など）であると感じた。また、失敗から、自分なりに考え、新しく楽しみを見つけて遊び出す子どもの姿から、いつも保育者が間に入ったり、上手くいくよう支えるのではなく、**自分たちで遊びを進めていく様子を見守ったり、うまくいかない体験から試行錯誤の芽生えを支えていったりすることも大切な援助であるように思う。**

また、子ども一人一人の実態や遊びの様子を見ながら、**保育者が出るところと引くところの見極めをすることも大切であると感じた。**

無断転載を禁ず。引用する場合は右記を必ず明記願います。「(C)公益財団法人 ソニー教育財団 ソニー幼児教育支援プログラム 幼児教育保育実践サイト <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>」